

令和5年度 定期作況報告

〈令和5年9月20日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 道南農業試験場

I 気象

8月下旬：平均気温は6.0℃高く、最高気温は6.3℃高く、最低気温は6.5℃高かった。降水量は6.0mmで平年の10%、日照時間は88.3時間で同182%だった。

9月上旬：平均気温は2.9℃高く、最高気温は2.5℃高く、最低気温は3.2℃高かった。降水量は40.0mmで平年の108%、日照時間は43.9時間で同83%だった。

9月中旬：平均気温は4.6℃高く、最高気温は3.5℃高く、最低気温は5.7℃高かった。降水量は36.0mmで平年の68%、日照時間は31.0時間で同57%だった。

以上、平均気温は4.5℃高く、最高気温は4.1℃高く、最低気温は5.1℃高かった。降水量は82.0mmで平年の54%、日照時間は163.2時間で同105%だった。

表1 気象表

調査項目	8月下旬			9月上旬			9月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	27.3	21.3	6.0	23.4	20.5	2.9	22.7	18.1	4.6	24.5	20.0	4.5
最高気温(℃)	32.0	25.7	6.3	27.6	25.1	2.5	26.8	23.3	3.5	28.8	24.7	4.1
最低気温(℃)	23.9	17.4	6.5	19.5	16.3	3.2	19.1	13.4	5.7	20.8	15.7	5.1
降水量(mm)	6.0	62.2	▲56.2	40.0	37.1	3.0	36.0	52.8	▲16.8	82.0	152.0	▲70.0
日照時間(hr)	88.3	48.6	39.7	43.9	52.9	▲9.0	31.0	54.5	▲23.5	163.2	156.0	7.2

注1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前10か年の平均値である。

注2) 表中▲印は「低」または「少」を示す。

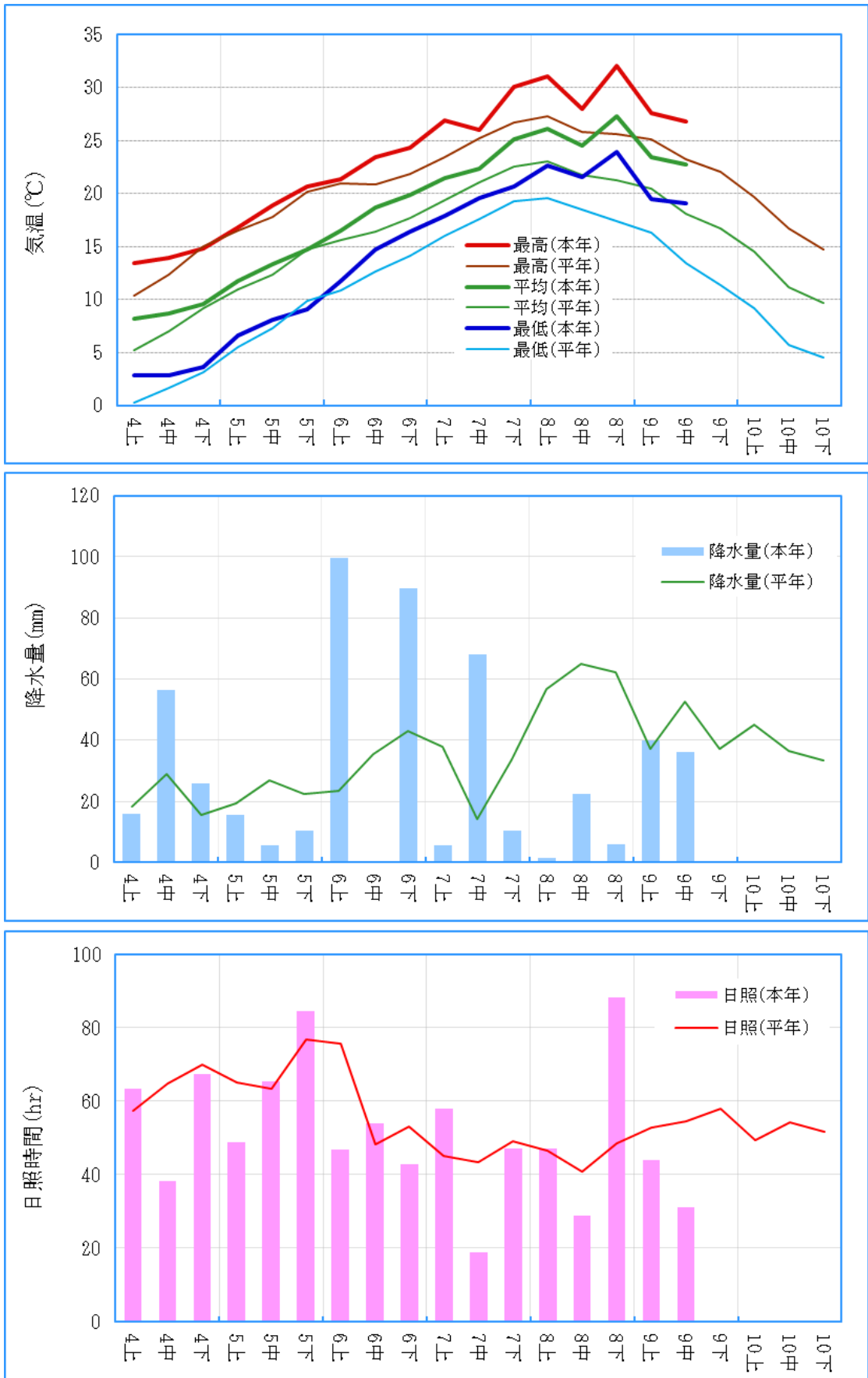


図1 気温、降水量及び日照時間の平年との比較(令和5年、北斗市アメダスデータ)

II 作況（水稻）

9月20日：やや不良

事 由：8月中旬～8月下旬にかけて、かなり高温に推移したため、登熟はかなり早く進み、登熟日数は「ふっくりんこ」で9日短く、「ななつぼし」で7日短かった。成熟期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年より17日早かった。「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに、穂数は少なかったが、一穂籾数は平年より多く、稔実歩合も高かったことから、 m^2 当稔実籾数は平年並であった。一方で、登熟歩合は平年より「ふっくりんこ」で5.0ポイント低く、「ななつぼし」で8.6ポイント低かった。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

8月20日：やや不良

事 由：登熟中の7月下旬～8月中旬にかけて、かなり高温に推移したため、登熟は進み、籾の黄熟化がかなり進んでいる。そのため本田生育調査と合わせて、成熟期の調査も行った。止葉葉数は平年より少なく、草丈は平年並であった。茎数は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年の91%と少ない。また稈長と穂長は平年よりやや長く、穂数は「ふっくりんこ」で平年の93%、「ななつぼし」は平年の92%と少ない。観察から、一穂籾数はやや多く、不稔の発生は平年より少ないと推察されるが、穂数が少ないため、 m^2 当籾数は平年より少ない見込みである。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

7月20日：やや不良

事 由：6月下旬はかなり高温であったため、生育は進み、幼穂形成期は「ふっくりんこ」「ななつぼし」とともに平年より3日早かった。また幼穂形成期後も7月上旬、中旬ともかなり高温であったため、生育はさらに進み、止葉期は「ふっくりんこ」は平年より7日早く、「ななつぼし」は8日早かった。本年は既に出穂期に達し、「ふっくりんこ」は8日、「ななつぼし」は10日早く、過去14年間で最も早い出穂期であった。葉数は平年より少なく、草丈は平年より長く、茎数は平年よりかなり少ない。生育がかなり早く進んでいることを勘案し、茎数を8月20日の平年値や成熟期の穂数と比較した場合においても、やや下回っている。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

6月20日：やや良

事 由：移植後の5月下旬は平年並の気温で多照に推移したため、活着は良好であった。活着後の6月上旬、中旬ともに気温が高く、生育は良好で、葉数は並からやや多く、茎数は平年より多く、草丈は平年より長かった。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

5月20日：やや良

事由：播種は平年より1日早い4月21日に行った。出芽は順調で出芽までの日数は平年より1日短く、出芽期は4月26日であった。育苗期間中、4月下旬は気温・日照ともに平年並、5月上旬はやや高温で寡照、5月中旬はやや高温で日照は平年並に推移し、全体としてやや高温で寡照であった。移植は平年より1日早い5月19日に行った。移植時の苗の形質において、草丈は平年より長く、葉数は平年を上回っており、茎数は「ふっくりんこ」で多く、「ななつぼし」で平年並であった。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値は平年並であったが、地上部乾物重は平年を上回っていた。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稻の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表2 水稻の生育（道南農試）

項目		品種名 /年次	ふっくりんこ			ななつぼし		
			本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期	(月日)	4.21	4.22	▲ 1	4.21	4.22	▲ 1
	出芽期	(月日)	4.26	4.27	▲ 1	4.26	4.27	▲ 1
	移植期	(月日)	5.19	5.20	▲ 1	5.19	5.20	▲ 1
	幼穂形成期	(月日)	6.29	7.02	▲ 3	6.25	6.28	▲ 3
	止葉期	(月日)	7.12	7.19	▲ 7	7.09	7.17	▲ 8
	出穂期	(月日)	7.20	7.28	▲ 8	7.17	7.27	▲ 10
	成熟期	(月日)	9.01	9.18	▲ 17	8.26	9.12	▲ 17
	穂揃日数	(日)	8	6	2	6	6	0
	登熟日数	(日)	43	52	▲ 9	40	47	▲ 7
生育日数	(日)	133	149	▲ 16	127	143	▲ 16	
移植時	草丈	(cm)	16.8	13.3	3.5	14.4	13.5	0.9
	葉数	(枚)	3.8	3.2	0.6	3.5	3.2	0.3
	茎数	(本/個体)	1.63	1.16	0.47	1.07	1.05	0.02
	地上部乾物重	(g/100本)	3.52	2.48	1.04	3.26	2.50	0.76
	地上部乾物重/草丈		0.21	0.19	0.02	0.23	0.19	0.04
本田生育	葉数	6月20日	8.1	7.6	0.5	8.0	7.8	0.2
	(枚)	7月20日	10.3	10.7	▲ 0.4	10.2	10.7	▲ 0.5
	止葉葉数	(枚)	10.3	10.8	▲ 0.5	10.2	10.8	▲ 0.6
	茎数	6月20日	633	530	103	509	467	42
	(本/m ²)	7月20日	693	867	▲ 174	651	765	▲ 114
		8月20日	670	737	▲ 67	619	681	▲ 62
	草丈	6月20日	38.5	32.2	6.3	37.9	33.4	4.5
(cm)	7月20日	91.5	72.9	18.6	93.0	75.8	17.2	
	8月20日	94.0	92.6	1.3	94.4	92.7	1.7	
成熟期	稈長	(cm)	79.9	76.8	3.1	77.0	75.4	1.6
	穂長	(cm)	16.7	15.9	0.8	16.9	16.2	0.7
	穂数	(本/m ²)	670	721	▲ 51	619	670	▲ 51
収量構成要素	一穂粒数	(粒)	48.6	45.7	2.9	50.9	49.6	1.3
	m ² 当粒数	(×1000)	32.6	32.9	▲ 0.3	31.5	33.1	▲ 1.6
	稈実歩合	(%)	94.7	94.1	0.6	97.0	94.1	2.9
	m ² 当稈実粒数	(×1000)	30.9	31.0	▲ 0.1	30.6	31.2	▲ 0.6
	同上平年比		100	100	0	98	100	▲ 2
	登熟歩合	(%)	80.9	85.9	▲ 5.0	76.1	84.7	▲ 8.6
	籾摺歩合	(%)		77.0			79.6	
	屑米歩合	(%)		6.0			2.9	
	精玄米千粒重	(g)		22.6			21.7	
収量	わら重	(kg/a)		68.7			69.3	
	精粒重	(kg/a)		77.4			75.4	
	精玄米重	(kg/a)		59.6			60.0	
	収量平年比	(%)		100			100	
	玄米検査等級	(等)		2上			1下	

注1) 平年値は前7か年中、令和4年（2022年、最豊年）、平成30年（2018年、最凶年）を除く5か年の平均値を用いた。

注2) 苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/m²（33cm×12cm）、1株3本植え。

注3) 本田にはN、P₂O₅、K₂O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5(kg/10a)施用した。

注4) 篩目は1.90mmを使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。

注5) 登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。

注6) 表中▲印は「減」または「早」を示す。